

Well-being (幸福・健康) な社会づくり —10年の歩みとこれから

日時：2019年7月14日(日)13:30～16:25

会場：ウインクあいち 11階 1102

参加費：無料（懇親会は有料となります）

日本福祉大学健康社会研究センター(Center for Well-being and Society, CWS)は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2009-2013)「Well-being(幸福・健康)な社会づくりに向けた社会疫学研究とその応用」を目指す拠点として開設されました。2009年と言えば、WHOが第62回総会で「健康の社会的決定要因に取り組む活動を通じた健康の不公平性の低減」(WHA62.14)決議をあげた年で、日本では、まだ「健康格差」「ソーシャル・キャピタル」などの言葉は一部の人が知らない言葉でした。

今年で20周年を迎える、延べ50万人のデータが蓄積されるに至った日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES)の名古屋事務局を担い続けたセンターを開設して10年の節目の年になりました。「健康日本21(第2次)」に「健康格差の縮小」や「ソーシャル・キャピタル」という言葉が登場するのに寄与した経緯や市町との共同研究のプロセスは、WHOのモノグラフで紹介されるに至っています。本シンポジウムでは、センター開設後の10年の歩みを振り返り、新センター長の下で始まる「これから」を展望します。

13:30～13:40 開会挨拶

13:40～15:00 報告

「健康社会研究センター10年とJAGES 20年の歩み」

近藤克則(前センター長、千葉大学・教授、国立長寿医療研究センター・部長)

「日本の社会疫学にセンターが果たした役割」

尾島俊之(浜松医科大学・教授)

「WHOを通じた国際貢献」

ローゼンバーグ恵美(WHO神戸センター・技官)

「次期健康社会研究センターの研究構想」

斉藤雅茂(健康社会研究センター長、日本福祉大学・准教授)

15:00～15:15 休憩

15:15～16:15 総合討論・パネルディスカッション

～Well-being(幸福・健康)な

社会づくりにむけたこれからの課題～

16:15～16:25 閉会挨拶

17:00～ 懇親会(会費制)

○会場へのアクセス

名古屋市中村区名駅4丁目4-38

JR・地下鉄・名鉄・近鉄「名古屋」駅より

- ・JR名古屋駅桜通り口からミッドランドスクエア方面徒歩5分
- ・ユニモール地下街5番出口より徒歩2分

○申込方法

下記申込先まで参加申込みをお願いいたします。定員(80名)になり次第締め切らせていただきます。下記フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/McjkKpqWXM3i17dm9>

<問合せ先>

日本福祉大学健康社会研究センター
担当：田中 p-tanaka@n-fukushi.ac.jp

このシンポジウムは

- ・**科研費** 科学研究費助成事業・科学研究費補助金 基盤研究(B)(一般)(18H00953)
- ・厚生労働科学研究費補助金(H30-循環器等-一般-004)の助成を受けて開催します

主催：日本福祉大学健康社会研究センター

後援：一般社団法人日本老年学的評価研究機構

